

## 国道 106 号宮古地区道路技術検討会の概要

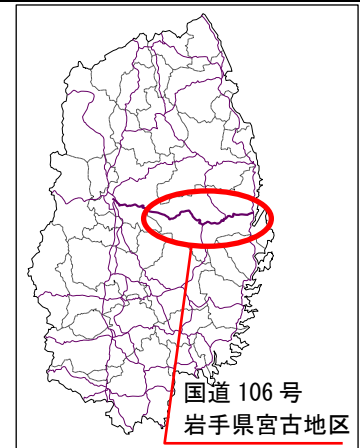
### 1 日時、場所、議事

	第 1 回	第 2 回
日時	令和元年 12 月 17 日(火)13:00~14:10	令和 2 年 2 月 21 日(金) 13:20~14:20
場所	盛岡体育館研修室(盛岡市上田)	岩手県水産会館大会議室(盛岡市内丸)
議事	(1) H30 国道 106 号宮古地区防災対策検討協議会の概要 (2) 地元説明会の開催結果 (3) 詳細なルート、構造の検討 (4) 技術的課題抽出の進め方	(1) 詳細なルート、構造の検討結果 (2) 技術的課題と対応策の検討結果

### 2 出席者(委員)

南 正昭	岩手大学工学部教授
井良沢 道也	岩手大学農学部教授
京谷 孝史	東北大学大学院工学研究科教授
高松 昭浩	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所所長
田中 隆司	岩手県県土整備部道路都市担当技監
上澤 和哉	岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター所長

※井良沢委員は第 2 回欠席



### 3 結果(要旨)

- 平成 30 年度に設置した「国道 106 号宮古地区防災対策検討協議会」により、優先整備区間として検討を進めた根市～<sup>ねいち</sup>墓目<sup>ひきめ</sup>、箱石～<sup>はこいし</sup>達曾部<sup>たつそべ</sup>のルート帯について、防災機能強化に向けた検討などを踏まえた詳細ルート及び IC 等の接続位置について了承を得た。
- 技術的課題を検討した結果、2 区間ともに地形・地質に課題があり、事業実施を可能とするためには、以下の対応による施工状況に応じた迅速な技術的判断や、高度な技術力の活用が必要であることを確認した。
  - ・ 検討区間は急峻な山地と谷地形からなり、混在岩を主とした地層で岩鍾堆積物が広く分布しており、不連続で割れ目の多い混在岩をトンネルで通過することから、詳細な事前調査の実施や類似例に基づく設計施工方法を選定すること。
  - ・ トンネル施工時には、天端及び切羽の崩落・抜け落ちなどが生じやすいため、複数の補助工法を組み合わせた施工や、前方探査による事前の状況把握など適切なモニタリングによる切羽安定性の評価を行うこと。なお、当該区間の地質である混在岩は、目まぐるしく地質が変わることから、特に前方探査による事前の状況把握が重要であること。
- また、箱石～達曾部では、湧水を伴う断層の存在が危惧されるため、断層の幅及び分布傾向、トンネル湧水量の把握が必要であることを確認した。